

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年7月15日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稲	<ul style="list-style-type: none"> ・現地ほ場において、茎数は平年並～やや多い傾向で、全般的に生育は順調である。一部で葉いもちの発生が見られる。また、セジロウンカやコブノメイガの発生が見られる。 ・中干し期間中の降雨により、中干しができていないほ場が多い。 ・農業試験場作況試験において、極早生品種の幼穂形成期到達は平年に比べて1～2日早かったが、7月に入って低温傾向となったため、早生品種の幼穂形成期到達は平年並となっている。現地では、特に高標高のほ場で生育停滞が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な穂肥施用を行い、適期防除を行う。 ・中干しが不十分なほ場では、間断かん水の乾田期間を長くし、田面を徐々に固くしていく。 ・高標高で低温が予想される場合は、深水にして保温に努める。
	大豆	<ul style="list-style-type: none"> ・6月上旬までに播種したほ場の生育は比較的順調だが、降雨で中耕培土や除草剤散布ができていないほ場も多く、雑草の発生が目立つ。一部は6月中旬の大雨で冠水し、出芽不良となっている。 ・6月中旬以降に播種を予定していたほ場では、降雨の影響で播種できていないほ場が例年以上に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策に努め、湿害回避を図る。 ・雑草の多いほ場では、天候の回復を待って中耕培土や除草剤散布を行う。除草剤散布に当たっては、使用方法、使用時期を確認し、適正使用を行う。 ・未播種のほ場では、天候の回復を待って7月中の播種に努める。通常より2割程度播種量を多めにして収量確保を図る。
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> ・7月13日作況調査の結果、二十世紀は横径51.9mm(平年比98%)で、前年より4日遅く、平年より2日遅い生育となっている。 ・「新甘泉」等で黒星病の発生が報告されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス二十世紀は、7月28日に県の査定会を開催する予定。 ・現在曇雨天が続いているが、梅雨明け後晴天が続くようであれば、かん水を実施する。 ・高温傾向が続くとハダニ類の発生が多くなるので注意する。 ・6月25日に病害虫防除所から病害虫発生予察注意報第1号(カメムシ類)が発表されている。園内を見回り、カメムシの発生が確認されたら早めに防除を実施する。
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> ・7月13日作況調査の結果、富有の横径は前年対比100%、平年対比95%で前年並み、平年より2日遅い生育である。 ・現在、仕上げ摘果作業が行われている。 ・特に目立った病害虫の発生は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げ摘果が終わってない園では早急に実施する。 ・果樹カメムシ注意報が発表されているため、ナシと同様園内を見回り、発生が確認されたら早めに防除を実施する。 ・曇雨天が続いている。園内の排水対策実施とともに適宜除草を行い、園内の通気をよくする。
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・「デラウェア」は出荷中盤となっている。市場は果物が品薄傾向の様相。 ・「巨峰」「ピオーネ」は着色期となり、果粒肥大は前年並みに近づいている。 ・「ピオーネ」着色始めは7月1日ごろで前年と同日となった。 ・「シャインマスカット」の生育は、やや遅れているが順調。6月下旬に縮果症が見られたが昨年より少なかった。 ・目立った病害は少ないが、べと病が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷時期は平年並みと見込まれる。 ・湿度が高い時期に収穫期となっているため、病気の発生に注意が必要。
野菜	すいか	<ul style="list-style-type: none"> ・7月14日現在、出荷量12,617t(前年比103%)、販売額2,945百万円(前年比106%)(全農とつとり扱い)。出荷終盤となり、4L規格以上の割合が増加しているが、等級、品質は維持されている。一部で雨の影響による裂果が発生しているが、影響は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨が続いており、最期まで疫病・褐色腐敗病の防除を徹底する。
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 ・育苗～定植中。定植済みのほ場で一部大雨により生育が遅れたほ場があるが、概ね順調に生育。 【夏ねぎ】 ・無トンネル作型、年明け定植作型が出荷中。年明け定植の7月どり作型は、暖冬肥大が進み、昨年と比べ抽苔の発生がやや多い。降雨で襟割れし品質低下するものがある。 ・水田転換ほ場では、長雨の影響で土寄せ作業の遅れや、根傷みによる生育停滞、葉先枯れが見られるほ場がある。 ・さび病はピークを越えたが、継続して発生している。山間部では7月上旬からべと病の発生が目立っている。 【秋冬ねぎ】 ・概ね順調だが、水田転換ほ場などで排水が悪いほ場では6月中旬以降の大雨、長雨で生育停滞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨末期の豪雨に備え、排水対策を徹底する。土砂の流入などで明渠が浅くなっている場合は、スムーズに排水されるよう土砂を取り除いておく。 ・根傷みが発生している場合は、葉面散布剤により草勢回復を図る。 ・気温上昇に伴い軟腐病、白絹病、ネギアザミウマの多発が懸念されるため、防除が遅れないよう徹底する。 ・梅雨明け後、春ネギ育苗ハウスの暑熱対策を徹底する。
	ながいも	<ul style="list-style-type: none"> ・日照不足の影響か、長芋、ねばりことも地上部の生育は平年よりやや遅れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭疽病、ハダニ、ナガイモコガなど病害虫の初期防除を徹底する。 ・芋の肥大期となるため、かん水、追肥を適正に管理する。
	トマト	<ul style="list-style-type: none"> 【夏秋トマト】 ・7月8日から出荷が始まっている。3L規格中心で果形の乱れは少ないがやや裂果が多い。着果負担が大きくなる時期を迎えているが、長雨、日照不足が続いており、草勢低下や芯止まりが多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉面散布剤を使用し、草勢維持を図る。草勢が低下しないよう、時期が遅れないよう追肥する。 ・梅雨明けに向けてかん水量の増量や病害虫防除を徹底する。
	ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> 【抑制作型】 ・定植が6月10日～6月20日を中心に行われ(定植期間5月25日～7月5日)、早いものは5段目が開花中。 ・曇天の影響で異常茎、チップバーンが発生しているほ場が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葉面散布で石灰欠乏症状の予防を行う。 ・草勢回復を図るため、薬剤防除とともに葉面散布剤を散布する。 ・今後、アザミウマ類の増加が予想されるため、防除を徹底する。
	アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ・立茎は完了し、夏芽が本格的に収穫中で、例年並みの出荷量。 ・6月下旬以降、茎枯病の発生が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茎枯病の防除を徹底する。 ・病害の発生抑制のため、風通しをよくするとともに防除時に薬液が十分かかるように、わき芽、下枝、伸長して垂れ下がった枝は早めに除去する。 ・高温乾燥が続くと、収量減、品質低下するため、梅雨明け後は適宜かん水する。
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 【鳥取市】 ・盆出荷作型は未発蕾。例年より1週間～10日遅れている。 【八頭地区】 ・6月中旬から葉枯病、炭疽病が散見される。主力品種であるF1オーガスタでは出蕾が7月上旬頃から見られ、出蕾時期は、昨年同様ではあるが、例年より10日程度遅い。また、草丈が1m未満になるものが例年より多い見込み。輪数の減少も想定される。 ・智頭町の彼岸出し作型はやや生育が早く、抽苔が始まっており、茎が細い。 【中部地区】 【倉吉市】 ・盆出荷作型は草丈50～100cmで、早いものは着蕾している。病害虫も少発生で概ね問題なし。晩生は抽苔中。 ・ハウス抑制作型は6月30日定植。活着しており生育は順調。 【北栄町】 ・ハウス抑制作型は6月24日～7月4日に定植された(例年よりも定植完了が早い)。 ・比較的冷涼な気温のため、活着はスムーズにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長雨が続いているため、排水対策と葉枯病の防除を徹底する。梅雨明け前にはホコリダニの防除を行う。 ・梅雨明け後、強日照と高温のため葉や蕾にヤケが生じやすいので、急な晴天に備えて散水できる準備をする。 ・生育遅れにより、出荷時期が昨年同様盆直前からとなる見込み。また、八頭地区においては栽培本数が少ないため、直売所中心の出荷を行う生産者が例年より多くなる見込み。市場出荷を行う意向のある生産者の栽培本数が約18,000本、実際に市場出荷されるのは9,000～10,000本程度と見込まれる。
	リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> 【智頭町】 ・6/19から選花場での共同選花を開始。着色不良、茎折れ、茎の曲がり、花の老化等により品質はもうひとつ。 ・6月下旬頃から褐斑病が発生始め、7月上旬も曇雨天が続くことから、発生拡大中。 【三朝町】 ・生育は概ね順調。現在の草丈は80～130cm。盆前の出荷をめざして栽培管理を行っている。 ・ほ場の一面に園芸育成の極早生系統も試験的に植栽されており、その系統は7月上旬から収穫期を迎えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨のやみ間を見ながら、病害虫の防除を徹底する。
	トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> 【八頭町】 ・3戸とも梅雨入り以降もシルバー寒冷紗を被覆している。7月下旬～8月上旬にかけて収穫し直売所等に出荷予定。 【倉吉市】 ・盆前～秋出荷トルコの定植が6月下旬から順次行われており順調に生育している(3a程度)。 【三朝町】 ・ハウス2aで盆前出荷用のトルコギキョウが栽培されている。梅雨期に入り、土壌が過湿になり根が弱って約1割の株に萎凋症状が見られる。 【北栄町】 ・6月下旬から7月10日頃に日南町で育苗された苗がハウスに定植された。生育は良好。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除を徹底する。特に開花前のスリップス類、後半のオオタバコガには特に注意する。 ・灌水管理に注意し、過湿にならないよう管理する。 ・プラスチック防止のため梅雨の時期は寒冷紗を除去し、梅雨明け後被覆する。
	アスター	<ul style="list-style-type: none"> 【北栄町】 ・抑制作型の播種は6月25日より開始。25日播種は出芽率80%以上と順調である。 	
	キク	<ul style="list-style-type: none"> 【北栄町】 ・6月下旬頃より出荷開始(ハウス栽培輪ギク)。大きな病害虫の発生はない。出荷当初が20円/本と低価格となる時期があったが、現在は50円程度と安定している。 	
畜産	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯地区】 ・生育は概ね順調であるが、転作田の一部に湿害が見られる。 【大山地区】 ・播種は終了し、順調に生育中 ・一部ほ場でネキリムシ、アワヨトウの発生が見られる。 ・一枚のほ場でツマジロクサヨトウの発生が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 【東伯地区】 ・8月上旬に収穫開始見込み。 【大山地区】 ・ツマジロクサヨトウ発生ほ場は、天候の回復を待って防除実施予定。
	イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> 【大山地区】 ・イタリアンライグラスは二番草収穫終了。 【西部地区】 ・飼料用稲の生育は平年並み。 	
その他	農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> 7月9日広島気象台発表の中国地方の1ヶ月予報では、暖かい空気に覆われやすく、2週目(7月18日～24日)、3～4週目(7月25日～8月7日)の気温は平年並が高いと予想されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【予防方法】 ・できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。 ・休憩をこまめにとり、作業時間を短くする。特に気温が高くなりやすいハウス内での作業は注意する。 ・作業するハウスは、できるだけ換気に努める。 ・日射を防ぐ服装をする。通気性の良い素材の長袖シャツと長ズボンを着用し、つばの広い帽子などを被る。 ・気温・湿度が高い中でマスクを着用すると熱中症のリスクが高まるため、屋外での農作業などにおいて人と十分な距離(2m以上)が確保できる場合には、マスクを外して行う。 ・マスクを着用している場合には強い負荷の作業は避ける。 ・農作業の際には水、氷(保冷剤)、濡れタオル等を持参し、汗で失われた水分を十分に補給するため水分をこまめに摂取する。また、汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。